

国語科 平成28年度重点目標

項目1	目標	各学年または発達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。
	達成方法	漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期に実践する。また、読書や副教材やプリントを用いた課題(宿題)を課題として与えることで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。
		中学では読書指導や新聞作り百人一首の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。また、物語文や詩を通じて情趣的な読解力、説明文を通じて論理的な思考力を、それぞれ身につけていく。 高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があることを知り、視野を広げて物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを、筋道を立てて表現できるようにする。また、古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。
項目2	目標	生徒達が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。
	達成方法	授業では、音読の機会、発問の機会、生徒達の発表や発言の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。タブレットの活用と、「すらら」「受験サプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。
項目3	目標	電子黒板や音声教材、映像教材を取り入れた授業を実践する。
	達成方法	教員間で密に連携しながら、授業研究を深める。授業見学なども積極的に行う。本文掲載や板書補助、映像や音声資料を電子黒板で積極的に活用する。タブレットの活用により、意見、発言のアウトプットを促す。
項目4	目標	生徒の進路実現の為に、個別に親身になって生徒に対応する。
	達成方法	成績不振者(定期考査・小テスト)には放課後や長期休業中に課題や補習を課してボトムアップをはかるとともに、力のある生徒に対しても授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。

地歴公民科 平成28年度重点目標

項目1	目標	生徒一人一人があらゆる物事に興味・関心を持ち、自ら学ぶ姿勢を持つことができるよう教科教員一丸となってサポートする。それによって、あらゆる世界・あらゆる社会の中で自身の生き方・在り方を考えられる生徒の育成を目指す。
	達成方法	授業における電子黒板・タブレットなどのICTの積極的利用・アクティブラーニングの要素を取り入れるなど、教員一人一人が既存の授業形態にとらわれず、授業の質の向上を図る。また、グローバルリーダーズクラスの指導に関して、教科全体で取り組んでいくことで、より多様性に応じた指導を確立する。
項目2	目標	生徒が世界・社会の劇的な変化に対応できる力を有し、生徒一人一人が未来社会で活躍できる進路選択実現のための学力や生きる力を育成を目指す。
	達成方法	通常授業の質の向上とともに、大学入試問題研究の継続、補習・講習の積極的実施などによって各学年で設定された数値目標を達成する。さらに、大学入試改革に向けて、外部研修会への積極的参加、情報の収集を図るとともに、教科内での情報の共有化と検討を重ねる。
項目3	目標	
	達成方法	

数学科 平成28年度重点目標

項目1	目標	授業の質の向上(アクティブラーニングの実施等)
	達成方法	研究授業の実践
項目2	目標	ICTの活性化
	達成方法	タブレットを使った授業の実践 ビデオ教材の開発を進める
項目3	目標	基礎学力の定着
	達成方法	MMT(Monday Morning Test)や小テスト、確認テストなどこまめに行い、定着を図る 外部模試の結果を検証し、指導に活かす
項目4	目標	高2までに教科書を終了する
	達成方法	夏期講習や冬期講習を有効に利用する
項目5	目標	大学入試への対応
	達成方法	主な大学の入試問題を解き合い、教科で研究する機会を設ける

理科 平成28年度重点目標

項目1	目標	①ステップ1・2の生徒における基礎学力の定着および成績向上を目指す ②ステップ3の生徒における進路実現のための実力向上を目指す
	達成方法	①日々の小テストの実施や課題等を通して理科の学習習慣をつけさせる。 授業の中に、実験や実習を多く取り入れることによって、理科への興味関心を抱くように工夫する。 アクティブラーニングを行うことにより、生徒が自ら学ぶ姿勢をつくる。 ②理系進学希望者に対して、基礎力の定着から受験問題への対応力をつけるために、教科内で指導方法を検討していく。 大学入試問題の研究を行う。
項目2	目標	グローバル教育を意識した授業展開を行い、生徒に興味関心を抱かせる。
	達成方法	GLCでは、單元ごとに英語を取り入れながら授業を行う(トピックとなることばを英語で紹介・論文を読む) GLC以外でも、SGU指定されている大学の紹介を行いながら、理科における英語の重要性を授業で実践する。 海外の理科の教科書を参考資料として授業内で活用する。
項目3	目標	タブレットおよび電子黒板等のICT機器を活用した授業展開を行う
	達成方法	中1～高1では、授業内はもちろんのこと、家庭学習でも活用できるような教材研究を行う。 中学、高校問わず、全学年で活用できるようなデジタルコンテンツの充実をはかる。 研修会等への参加を積極的に行い、教科内で共有する。

保健体育科 平成28年度重点目標		
項目1	目標	・電子黒板・タブレットのICTを活用し実践を図る。 ・授業を運動学的に、分かりやすく説明し展開していく。
	達成方法	授業中、タブレットで自分の運動を撮り、確認して修正し向上を図る。 グループ学習などで、お互いの演技や運動の見直しさせる。
項目2	目標	運動を、生涯活用していく重要性を理解させる。
	達成方法	健康の大切さを認識させ、日常生活の中で具体的に組み入れるように図る。
項目3	目標	体育の授業における心得を通じて、指導の一貫性を図る。 (礼儀・時間厳守・思いやり・身だしなみ・協調性)
	達成方法	生徒全体に心得を熟知させ、授業を受ける態度や意欲など、また体育を通じて礼儀の重要性を認識させる。
芸術科 平成28年度重点目標		
項目1	目標	グローバル人材育成のため21世紀型アクティブラーニングを授業の中に取り入れていく また、電子黒板、タブレットなどのICTを使って、よりわかりやすい授業を展開していく
	達成方法	・授業の中で生徒同士、生徒と教員の意見交換相互理解の時間を持つ ・授業の導入時に電子黒板、タブレットなどのICTを利用して楽しく学び、課題の理解を深めさせる ・タブレットの記録機能を使い、自分たちの演奏、作品を客観的に知ることにより、高いレベルの演奏、作品を目指し、自主的に進める力を養う
項目2	目標	丁寧な対面教育を心がけ、生活習慣の基礎を身に付けさせる 芸術活動を通じて「豊かな心」を養い、「努力の後の達成感」を培う
	達成方法	・授業での挨拶、姿勢、態度にも気を配り、生活習慣の基礎を身に付けさせる ・音楽・美術・書道それぞれの科目の中で、与えられた課題に対しての意味を考え、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う ・高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる
項目3	目標	芸術を通じて地域活動に参加する
	達成方法	・地域での芸術活動(コンサート、展覧会等)に積極的に参加し、地域活動の大切さを気付かせる

外国語科 平成28年度重点目標

項目1	目標	「実践的英語力」を目指した英語の授業の充実を目指す。
		アドバンストクラスの生徒もコアクラスの生徒もその区別なく、英語をコミュニケーションの道具として理解し、実際の場面で使えるようにする。
	達成方法	英語学習が目的ではなく、生徒それぞれの目的を達成するための強力な力であるという認識を生徒も教員も全員で共有する。
		・クラスルームイングリッシュを多用し、授業はなるべく英語を使って教える。
		・オンライン英会話を週1回行うことで、英語での実践的な会話力を養う。
		・アクティブラーニングを実践し、ピアサポートの中で生徒が英語でコミュニケーションを取るようになる。
・タブレットのロイロノートを使って、生徒がグループワークで課題プレゼンテーションを英語でするように指導する。		
・スピーチコンテストの指導を通して、生徒が大勢の人に対して自分の意見を英語で自信を持って発表できるようにする。		
・ディベートの指導を通して、生徒が相手の立場を理解して、論理的に考え、自分の考えを相手に効率的に英語で伝えられるようにする。		
項目2	目標	大学合格率の向上を推進する。
		アドバンストクラスの生徒は国立・私立難関校に過半数が受験するようになる。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようになる。
		コアクラスの生徒はGMARCHレベルの大学に過半数が受験するようになる。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようになる。
	達成方法	帰国生の生徒は海外大学に4分の1が受験するようになる。受験した生徒の過半数が希望校に進学するようになる。
		・電子黒板を利用を促進する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説を電子ペンを使ってわかりやすく行う。
		・パワーポイントを利用して、動画やイラストを見せたり、アニメーション機能を使って英文を立体的に理解できるようにする。
・デジタル教科書のフラッシュカード、スラッシュリーディング、シャドーイングなどの機能を使って生徒の理解を促進する。		
・タブレットのe-learningで家庭学習を促進し、英語の合計学習時間を学校での授業時間の2倍以上になるようにする。		
・授業のスピードを上げ、教科書を早く終わるようにする。余裕の時間を利用し模試対策を授業時間内に実施する。		
・早朝・放課後の補習体制を整え、理解の遅い生徒を助け、生徒の全体的なレベルアップに繋げる。		
項目3	目標	新設したグローバルリーダースクラス(GLC)の充実を図る。
		GLCの授業活動が牽引力となってアドバンストクラス・コアクラスの授業が変化するようにする。
		それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。
		英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。
	達成方法	・ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用を多くする。
		・英語の授業を教員がお互いに参観する。必ず授業後の意見交換をする。
・校外の様々な研修会に英語教員が積極的に参加する。また校内で英語ディベートの研修を行う。		
・他教科の教員と連携を深める。特に生徒が日本語でディベートが出来るように、校内の環境を整える。		
・海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。		
・外国語発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏英語のネイティブの授業環境を準備する。		

**家庭科 平成28年度重点目標**

項目1	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成を目指し、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。日本と世界の文化の実践的学習を衣食住にわたり取り入れる。</li> <li>・アクティブラーニング授業を展開し、知的探究心を育み、問題解決能力や論理的思考力を向上させ、主体的に考えて判断し、自ら行動できる力を身に付けさせる。</li> </ul>
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身がが講習や研修の受講など学びの機会を多く持ち、授業の質、量を向上させる。</li> <li>・学習単元に沿って、国際社会の仕組みや身近な課題に気付かせ、問題解決のための思考が繰り返し実行されるように、授業を組み立てる。</li> <li>・衣食住に関する日本の文化と世界の文化を、実習を通じて体感させる。着付・外国で食べている料理を調理する。</li> </ul>
項目2	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化が進む日本の中で必要とされる躰・マナーを取り入れ、実践する態度を育てる。</li> <li>・学習内容を将来の職業に結び付け、キャリア計画やライフプランに発展させて、進路実現を確実なものとし、国際的に通用する人材を育てる。</li> <li>・実習や作品製作、課題学習は、生徒一人一人の創意工夫を生かすことができ、ひいては、目標課題設定計画立案し、完成のための技術の習得と忍耐力を身に付ける。</li> </ul>
		・高校2年生 家庭総合 食物検定4級、保育検定4級を全員受験。100%合格
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が社会に目を向け将来の自分の姿に高い理想が描けるようにモデルを設定する。</li> <li>・実習を通して、国際的に通用するプレゼンテーション力を育成する。</li> <li>・将来の職業生活に結び付くように単元に合わせて、学習内容の中にキャリア計画を取り入れる。</li> <li>・興味関心や意欲を持てる教材を選択し、成功体験を積み重ねながら展開することで「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を培える場を多様に配置する。</li> <li>・授業の中で検定の基準となる項目を取り扱い、調理実習や保育実習を実施する。</li> </ul>
		進路に応じた研究・発表
項目3	目 標	・地域の催しに参加・出品し、地域との理解と協力を深める。
	達成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の催しに出品する。</li> </ul>
		ライフプランニング・クワニスドール

**情報科 平成28年度重点目標**

項目1	目 標	オフィスソフトなどを、より効率的に習得させ、それらを日常的に活用できる力をつける。
	達成方法	Word、Excelを、スクリーンに操作方法を示しながらの説明と、個別対応とのバランスを考え、より理解を深められるよう、演習の効果を向上させる。特に個別対応に注意しながら行う。
項目2	目 標	「情報」を扱う上での技術的構造的な基礎知識を習得させる。
	達成方法	コンピュータやネットワークなどのしくみや2進法、16進法等について、視覚的に示し、また計算例を効果的に示すことにより、興味を持たせ、演習問題に習熟させる。
項目3	目 標	情報モラルや著作権などの知識を習得させる。
	達成方法	情報モラルの大切さや著作権法の重要性を理解させるため、身近で、より具体的な事例を示すとともに法律間の有機的な関係を示すことで、理解を深めさせる。また新しい知識なども随時示す。